令和４年度第４回旭川方面留萌警察署協議会議事概要

１　開催日時

令和５年３月２日（木）　午後３時50分から午後５時30分まで

２　開催場所

旭川方面留萌警察署会議室

３　出席者

⑴　協議会委員　　６人（定員６人）

会　　長　　居原田　隆夫

副　会　長　　岩倉　健悟

委　　員　　佐藤　深雪、櫛井　俊介、南　明恵、村上　仁美

⑵　警察署員　　10人

署　　長　　屋代　芳彦

副　署　長　　石前　範幸

警務課長　　大賀　光一郎（事務局）

会計課長　　石田　直人

生活安全課長　　渡辺　　諒

地域課長　　小幡　慎司

刑事課長　　山本　真也

交通課長　　遠藤　辰哉

警備課長　　水戸　康博

警務係長

４　開催概要

⑴　会長挨拶

⑵　署長挨拶

⑶　留萌警察署業務推進状況説明

ア　刑法犯・特別法犯の発生検挙状況（概況）

○　刑法犯の発生・検挙状況（身近な犯罪を含む）

○　道民が不安を感じる身近な犯罪の発生状況（警察本部重点犯罪）

○　特別法犯の検挙状況

イ　交通事故の発生状況

○　人身事故の発生状況等

○　交通事故抑止対策

⑷　テーマ説明

○　冬型事故の特性と対策

○　視界不良時の交通事故の実態映像

○　運転中危険予測の疑似体験（動画ＫＹＴソフト使用）

⑸　質疑

ア　冬型交通事故の特性について

委員：　先ほど、冬型事故の特性についての説明を受けたが、スリップ事故の特徴は何か。

警察：　冬季におけるスリップ事故を分析すると、正面衝突や単独事故での死亡事故が多く見られます。また、追突により負傷するケースが多いのも特徴です。スリップによる死亡事故は、スピードが出やすい非市街地の直線やカーブで多く発生しています。

一方、死亡事故に至らない人身事故は、市街地の交差点等で多く発生しています。

イ　多重事故について

委員：　自動車専用道路で発生した多重事故の説明を受けましたが、吹雪の中、多重事故に巻き込まれた場合、どのような行動を取れば良いのか。

警察：　路外に安全な場所があれば速やかに避難して下さい。車を降りてから道路上に居続けるのは非常に危険です。安全な場所がなく、追突される危険性があるのであれば、なるべく前の方へ避難して下さい。

また、後続車に注意しながら発火させた発煙筒を後方の路面に置き異常を知らせて下さい。発煙筒はハザードランプよりも見えやすく、特に視界不良時は有効です。

委員：　ほとんどの人は発煙筒を実際に使用したことがなく、いざ使用するとなると躊躇するのではないか。発煙筒の使用方法について訓練する機会があっても良いのではないか。

警察：　多くの人が発煙筒の使用訓練が出来るよう検討をいたします。

ウ　ホワイトアウトについて

委員：　視界不良時の交通事故の実態映像を見せてもらったが、ドライブレコーダーの映像がリアルで非常に参考になった。留萌地方は風が非常に強いのでホワイトアウトになる場面も多い。私の場合、留萌と札幌を行き来している中で、ホワイトアウトに遭遇した場合は、パーキングやコンビニの駐車場に避難しているが、自動車専用道路を走っているときと一般道路を走っているときのホワイトアウトの対処法に違いはあるのか。

警察：　ホワイトアウトは、道路の線形や路面と壁との境界がわかりにくくなり、太陽の位置によっても見えやすさが変わってきます。そのまま走っていると路肩に接触してスピンする可能性があります。自動車専用道路は便利ですが逃げ場がなく、停車すると追突されるのではないかという恐怖もあると思います。

自動車専用道路では、ホワイトアウトはすぐに通行止めとなり、一般道

路では脇道があり逃げることが出来ますが、いずれにしても、事前に天候や道路状況をよく確認した上で運転して欲しいと思います。

エ　その他事故について

委員：　日中、トンネルを抜けたところで交通事故を目撃したことがある。
こうした事故の原因や注意点は何か。

警察：　トンネルを出るときに、眩しさを感じ、視界が一瞬真っ白になることがあります。慌ててハンドルを切って対向車線にはみ出さないように注意して下さい。トンネルでスピードを出し過ぎると命に関わる事故になります。

委員：　深川留萌自動車道での事故をよく耳にするが、どのような事故が多いのか。

警察：　単独事故が多く、ガードレールへの接触や横転、追突事故も発生しています。
はっきりとした原因は不明でありますが、他車を巻き込む事故よりは、スピードの出し過ぎやハンドル操作の誤りが原因の単独事故が多い状況です。また、事故があるとレッカー作業が終了するまで通行止めになるので、事故情報にも注意して下さい。

オ　子供の登下校時における通学路等の防犯対策について

委員：　これから暖かくなると子供の登下校時に、通学路等で不審者の出没が懸念されると思うが、こういった事案を警察が認知した場合は、関係者に連絡する体制は整っているのか。

警察：　春は新入学児童の交通事故防止、登下校時の見守り活動等を行ったり、時期に関係なく不審者や犯人の逃走等を認知した場合は、教育委員会をはじめ、学校関係者へ速やかに連絡する情報発信ネットワークが構築されているほか、通称「ほくとくん防犯メール」等の媒体も活用して広く情報を発信することになっております。

⑹　次回の開催予定

次回は、令和５年６月頃に開催を予定している。

テーマについては、「地域警察活動について」です。